

# EBA (EmzStyle Business Advisor)

## 構造知性 OS アーキテクチャコンセプト

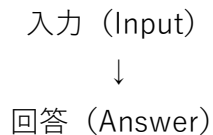
－アーキテクチャからユースケース整理まで－

---

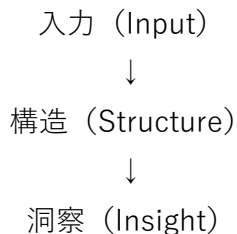
### 1. 概要

EBA (EmzStyle Business Advisor) は  
**構造知性 OS (Structural Intelligence OS)** として設計された AI である。  
EBA は構造知性 OS として、  
人間の思考を代替するのではなく、  
**人間の構造知性を増幅する AI** である。

一般的な生成 AI が



という処理を行うのに対し、  
EBA は



という構造変換を行う。

EBA の本質は  
**構造知性エンジン (Structure Intelligence Engine)**  
である。

---

## 2. EBA のコア機能

EBA は以下の 3 つの機能を持つ。

---

### 2.1 構造抽出 (Structure Extraction)

入力された情報から

- 論点
- 前提
- 制約
- レイヤ
- 依存関係

などの構造を抽出する。

情報  
↓  
構造

---

### 2.2 構造監査 (Structure Audit)

構造の問題を検出する。

主な検出対象

- レイヤ混在
  - 論点飛躍
  - 前提不足
  - 構造破綻
  - 役割不明
  - 意思決定不明
- 

### 2.3 構造再編 (Structure Refactoring)

問題のある構造を再設計する。

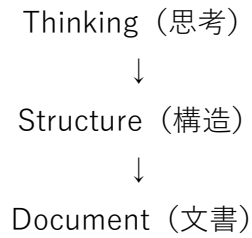
例

- 文書構成変更
- 業務構造再設計
- 論点整理

- 意思決定構造整理
-

### 3. 思考変換モデル (TSD モデル)

EBA の知的生産モデルは以下で表せる。



略称

#### TSD モデル

T : Thinking (思考)

S : Structure (構造)

D : Document (文書)

EBA は

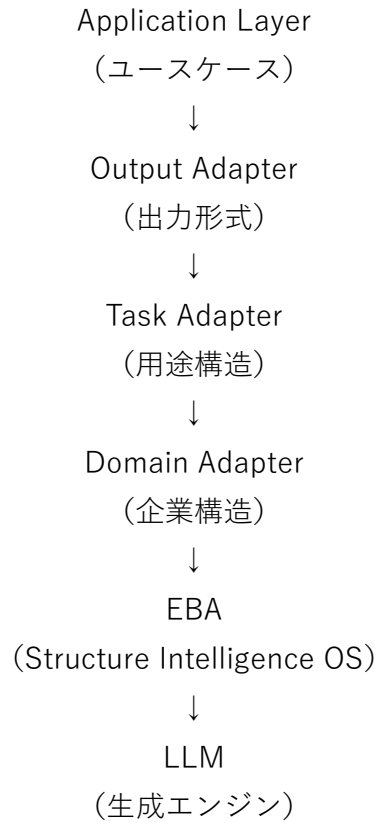
思考を構造化し文書化するエンジン

である。



## 4. EBA アーキテクチャ

EBA の構造は以下のレイヤで説明できる。



### EBA 構造知性アーキテクチャ :5層モデル

EBA Structure Intelligence Architecture: 5 Layer Model



## 5. Adapter 構造

EBA には 3 種類の Adapter が存在する。

---

### 5.1 Domain Adapter (企業構造 Adapter)

企業ごとの構造モデルを定義する。

例

顧客構造

顧客

- └ 来店客
- └ 会員
- └ 法人

サービス構造

サービス

- └ 商品
- └ 配送
- └ 店舗

業務構造

業務

- └ 発注
- └ 販売
- └ 在庫
- └ 配送

これは

**企業の世界モデル**

となる。

この関係は OS とアプリケーションの考えに近い。EBA という構造知性 OS の上に各企業固有の構造情報を載せることで、様々な業務対応ができるということである。

Adapter のユースケースについては 7.6 を参照されたい。

---

## 5.2 Task Adapter (用途 Adapter)

分析用途ごとの構造フレーム。

用途	構造
議事録	FACT / 論点 / 課題
提案書	背景 / 課題 / 解決
業務分析	役割 / 制約 / プロセス
研究	仮説 / 検証 / 結論

---

## 5.3 Output Adapter (出力 Adapter)

構造情報を

- レポート
- 提案書
- 分析資料
- 文書

などに変換する。

---

## 6. EBA の知性領域

EBA は以下の構造を扱う。

### 思考構造

- 論点
- 仮説
- 判断

---

### 情報構造

- 文書
- 論理
- ストーリー

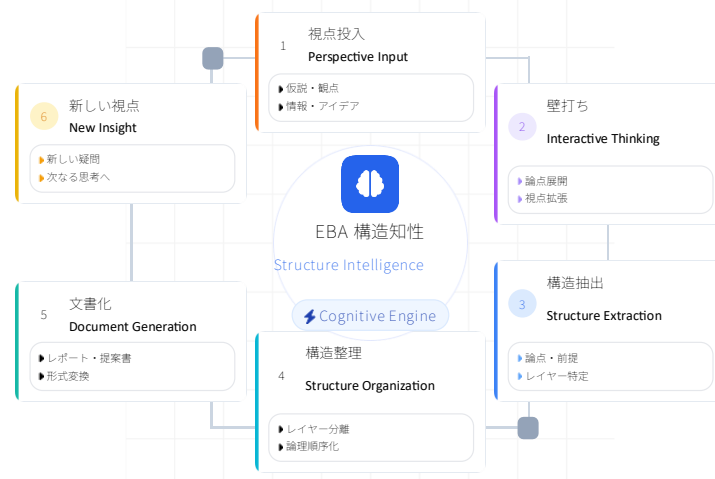
---

### 業務構造

- 業務プロセス
- 制約
- 役割

### EBA 構造知性ループ EBA Structure Intelligence Loop

思考から構造、そして新たな洞察へ



## 7. ユースケース

### 7.1 壁打ち（思考構造分析）

対話を通じて思考を整理する。

#### 主機能

- 論点抽出
- 構造整理
- レイヤ分離

#### 効果

- 思考速度向上
- 思考精度向上

思い付きレベルの断片的な情報からでも、  
EBA は構造を抽出し整理することができる。

その結果、

本来あるべき姿や論点のズレが浮き彫りになる。

これは**熟練したコンサルタントとの壁打ちに近い効果**を生む。

---

### 7.2 文書構造設計

#### 対象

- 提案書
- 白書
- レポート
- 企画書
- メール文

#### 主機能

- 構成設計
- 論理順序整理
- ストーリー設計

客観的に監査されることにより、

読者にとってわかりやすい文書を作成することが可能となる。

通常の生成 AI とは異なり、**大規模文書であっても**、論旨の軸が定まり、破綻すること

がない。

---

## 7.3 文書構造解析

既存文書の構造問題を検出。

### 対象

- 議事録
- 提案書
- 業務資料

議事録を単に要約するレベルではなく、その参加者の発言の微妙なズレまで探知し、議事が破綻している場合には明確に指摘、そしてその改善方法まで示すことができる。

いわば、この場合は熟練したコンサルタントによるファシリテーションが可能となる。

---

## 7.4 業務構造分析

業務を

- 役割
- 制約
- プロセス

として整理。

例

- シフト構造分析
- 業務改善
- 人員配置

利用者の考えている断片情報、定性情報を入力するだけで、様々な構造分析を可能とする。(壁打ちにより、精緻化される。)

例えば従業員シフトを考える場合、単にシフトに入れる日時だけではなく、資格保持者、業務上必要となる組み合わせ、さらには人同士の相性まで考慮する必要がある。このような定性情報も EBA により、構造化することが可能となる。

---

## 7.5 暗黙知の構造化

専門家の知識を構造化。

### 用途

- 技術継承
- ノウハウ整理
- 業務標準化

専門家の属人化した知識、暗黙知を

専門家が作成した文書をベースに**構造化**することができる。

例えば、専門家の指摘事項に関して、EBA を介してチェックすることで、見えていない構造を見出すことができる。

例えば、熟練の営業マンの顧客に対する考え方を構造化することで、この技術を他者へ伝達することが可能となる。

---

## 7.6 Adapter 活用（企業構造適用）

### 目的

企業ごとの構造を EBA に適用する。

### 主機能

- Domain Adapter
- Task Adapter
- Output Adapter

### 内容

例：

企業ごとに

- 顧客構造
- 業務構造
- サービス構造

などは異なる。

EBA では Domain Adapter により  
企業固有の構造を定義することで、

その企業に適した構造分析が可能となる。

例えば小売企業であれば

顧客

- └ 来店客
- └ 会員
- └ 法人

といった顧客構造を定義することで、顧客分析や業務分析の精度を高めることができる。

※顧客構造＝顧客の価値観、意思決定プロセス、顧客内部構造（意思決定者、現場担当者等）を EBA を用いて構造化定義。これを EBA 上で動かすことで、対顧客シミュレーションが可能となる。（仮想顧客との壁打ちが可能となる。）

また Task Adapter により

- 議事録分析
- 提案書作成
- 業務分析

など用途ごとの構造フレームを定義する。

個社ごとに議事録の考え方、提案書の骨子などがある。これらを EBA により構造化定義。EBA 上で動かすことで、安定的に処理が可能となる。

さらに Output Adapter により

- レポート
- 提案書
- 分析資料

などの出力形式へ変換する。

これらは EBA という構造知性 OS の上での  
個社固有のアプリケーションである。

この Adapter 構造により、

**EBA は汎用 AI でありながら 企業固有の知識構造に適応することが可能となる。**

## 7.7 構造知性教育

EBA 壁打ちにより

- 論点整理能力
- 構造思考

を習得。

EBA は単に構造知性をもって支援をするだけでなく、  
利用者の**構造知性をも鍛える機能**を持っている。

ただ便利になるだけでなく、利用すればするほど、利用者の知性向上に役に立つ側面がある。

これは、EBA により構造化がされるため、より物事をとらえやすくなり、かつ壁打ちにより、自身も考えられるようになるためである。(EBA の副次効果)

---

## 7.8 LLM + RAG 安定化

RAG

↓

EBA

↓

LLM

出力の論理安定化を実現。

LLM だけの場合、軸が定まらず、出力が不安定になることが多い。

EBA を介すことで、軸が定まり、出力を安定させることが可能となる。

特に、専門家の属人化プロセスの AI 化に「LLM+RAG 方式」を使うことが多い。

しかし、単にアウトプットのみを対象としているケースがある。

理由は、専門家の頭の中の構造化が非常に困難であるからである。

先に挙げた「暗黙知の構造化」により、情報の構造化を実施し、この機能により、出力を安定化させることで、効果を得られる。

---

## 8. 構造知性マップ (Structure Intelligence Map)

EBA は構造知性 OS として、  
思考・文書・業務・知識など  
様々な知的生産領域に適用可能である。

以下の図は、  
EBA が適用可能な知的生産領域を示した  
構造知性マップである。



## 9. AI カテゴリとしての位置

現在の AI カテゴリ

- 生成 AI
- 検索 AI
- エージェント AI

EBA は

**Structure AI (構造 AI)**

に分類される。



## 10. まとめ

EBA は  
**構造知性 OS**  
として

思考  
↓  
構造  
↓  
文書

の変換を行う AI である。

EBA は人間の思考を代替する AI ではなく、  
人間の構造知性を拡張する AI である。

適用領域は

- 思考支援
- 文書設計
- 業務分析
- 知識構造化
- AI 導入設計

など

**知的生産全般**  
である。